

平成17年度活動報告と来年度計画：社会と核融合クラスター（調整委員会委員 小川雄一）

主な活動について紹介したい。高校生シンポジウムは、若い人への啓蒙活動であり、三年連続で行っている。米国のマーチン・ペン博士が日本の高校で特別授業を行うため昨年12月に一週間滞在した。今年度の社会と核融合の在り方に関する準備検討会は明後日開催する予定である。核融合フォーラムのウェブサイトの整備も紹介する。広報活動については、フォーラムだけでなく研究機関の広報体制との連携の充実図りたいと思う。最後に若手のアンケートの結果についても紹介する。

日本科学未来館やプラズマ・核融合学会とも連携し、主に関東の高校を中心に三年連続で高校生シンポジウムを行った。二年前からは名古屋でも実施している。高校生シンポジウムでは、高校生にポスターや口頭で発表してもらっている。たくさんの高校に参加してもらい、優れた発表には表彰を行った。平成18年度は福田先生が中心となって大阪大学で実施する予定である。スーパーサイエンスハイスクール（SSH）などの制度を利用して、今では全国の高校から集まるようになってきており、昨年は四国からも参加している。これは非常に有効な活動であり、一昨年には高校生を連れて那珂研の見学にも行った。今後も高校生レベルで啓蒙活動を色々とやっていきたい。

その一環でもあるが、米国のマーチン・ペン博士が日本の高校で講演をしたいと申し出があった。これは渡航費を含め全て米国持ちの予算である。来日して早々、埼玉、名古屋、京都の高校をまわって授業を行い、帰国前日に未来館でシンポジウム講演を行った後に帰国した。一週間という短い非常にハードなスケジュールであったので、JRのフリーパスを使って全国を回ってもらった。米国では啓蒙活動に資金的援助が出る。日本でもこうした制度を作る必要がある。

ホームページについては、江尻先生が中心となって、ボランティアで頑張っている。ITERのホームページの英語版を、原子力機構のITER関連部門の方と協力して逐次日本語訳している。ITERホームページの日本語訳の一例が、核融合フォーラムのホームページに掲載されている。プ

ラ核学会から用語集を出しているが、より幅広く理解を広めるということで、これも江尻先生を中心に頑張って載せて用語集を作成している。用語集についてもまずは約40～50の用語を登録した。適当な用語をキーワードとして、用語集を拡充しているところである。書籍の評価や紹介も行っている。用語集とかHP整備を、色々な機関の広報機関とも連携を図って進めていきたいと考え、核融合広報ネットワーク設立を、フォーラムが核となって提案している。

昨秋、プラズマ・核融合学会の特別企画に向けて、若手のアンケートを実施した。アンケートの実施期間は2005年11月、対象はプラ核若手のメーリングリストの登録者であった。属性は30代が過半数を占め、磁場核融合が半分以上であり、大学、研究所が半々くらいである。ITER計画への参加について障害は何か、という問いに対し、現在の仕事との兼ね合い、受注チャンスがない、大学からの長期滞在難しい、帰る場所があるか、などの懸念が多いようである。地理的な問題、家族の事情などをあげる者もいた。BAに関して何に期待するかとの問いに対し、五つのプロジェクトについて、万遍なく参加はしたいという結果になった。どれについても一定の期待が見てとれる。デモ炉に向けた研究開発に若手も積極的に参加したいとの表れである。個々の要望として、例えば代表的には遠隔は意義有る施設にすべきとか、シミュレーションセンターでは人材育成が大事とか、原型炉ではトリチウム関連施設も必要とか、サテライトトカマクに対する期待とかが挙げられた。不足しているものとしては、一般社会への説明、他の学術分野への説明、コミュニティ内への説明などをあげている。外に対してもっと情報発信すべきという意識の表れかと思う。ITER、BAへの要望について、人的資源の問題についての要望がある。また情報公開をしてほしいという要望もある。なかなか情報が出てこない。このような事情を踏まえて、最近では情報発信が促進されてきており、少しずつではあるが改善されてきていると思う。まとめると、若手の声としては、ITERへの期待、参加希望が高まっている一方で、ポスト、参加方法などの具体的な情報が不足している。現在の仕事との兼ね合い、家庭事情が不安要素となっている。BAについては情報・議論が不足している。人、場所についての要望が多い。ITER後のデモ炉を見据えた戦略の議論、ITERを補完するR&D活動、人材育成が必要であり、一般社会への啓蒙活動が重要である、などが主な意見であった。これ以外の生の声をこのウェブサイトに掲載しているので、ぜひアクセスしてほしい。